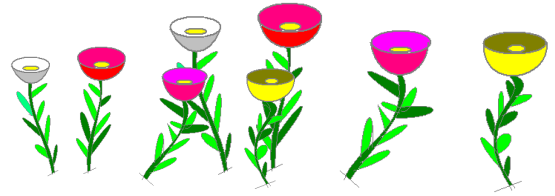


【月曜朝会の話より3月①H270316】



「仕上げの2秒」

お早うございます。(おはようございます。)

6年生の合図に、たくさんの方が応えてとても気持ちのいいあいさつができました。さて、いよいよ3月も後半。あっという間の3月。1年生から4年生まではあと7日。5年生と6年生はあと8日。月曜朝会も今日を入れてあと2回ぐらいでしょうか。

1年生から6年生までどの学年の人たちも、今の学年の最後の月。残り数日ですね。

そしてとくに、6年生は小学校最後の数日。

これまでの1年間の努力を、6年生は小学校生活での6年間の努力を、それぞれ次の1年間、次の日々に生かしていく上で大切な時期になりますね。

そこで、今日は、仕上げの2秒という話をします。

ずっと以前、焼き物づくり夢中になっていた頃、益子に釉薬(うわぐすり)をさがしにいったときに、こんな話を聞きました。

陶芸家で人間国宝の浜田庄司さんという人が、記録写真の撮影に来られた写真家の方とこんな話をしたそうです。

60センチもある大きなお皿を造ります。

まず、掘り出した粘土を、汗をかきかき何度も何度もよくこねて滑らかなよい粘土を作ります。そして、轆轤というぐるぐる回る台の上で両方の手を泥だらけにしながお皿の形にひねり出します。大きな大きなお皿です。まだ乾いていない泥のお皿はとても重いのです。このお皿を良い形にするために丁寧にかんながけをし、無駄な粘土を削って良い形に整形します。

つぎに、今度は作ったお皿をひび割れさせないように、割れないように、ゆっくりゆっくと時間をかけて乾燥させる作業。その次にいよいよ1度目の窯焼き。大きなお皿や壺や茶碗を焼くためのお窯に割れないように上手に詰めて、割れてしまわないようにゆっくり手間ひまをかけてたくさんの薪を使って丁寧に素焼きします。

そして、あとはもうきれいに色や模様をつけてもう一度お窯に入れて焼くだけ。出来上がる寸前の段階です。いよいよ最後の仕上げに、絵付けといって色や模様をつけるために釉薬という焼き物用の絵の具を塗るのです。とても立派な大きなお皿。いよいよこれから釉薬で絵付けをして仕上げます。これまでの粘土捏ねや、轆轤での形作り、カンナをかけての形の仕上げ、割れないように時間をかけての乾燥作業と丁寧な素焼き作業、そして最後の最後の仕上げの『絵付け』という、色付けの作業です。

ですからさぞかし丁寧に、慎重に・・・と、思いきや、柄杓に釉薬(焼き物用の絵の具)を入れ、一呼吸、ふた呼吸入れると、それこそ1、2秒で柄杓がけ(釉がけ)という方法で『絵付け』してしまいます。あっという間もありません。

思わず、写真家の方が「もうちょっと手間をかけて丁寧にしても・・・。これまでこんなに手間をかけて造ってきたのに・・・。」と、思ってそういと、こんな答えが返ってきたそうです。

『確かにあっという間かもしれないが、この数秒の中に私のこれまで60年間身につけてきた経験が入っている。6お年間休まず練習して、たくさんの経験をして、長い長い時間と、たくさんの努力をして、自分の力で身につけたたくさんの知識や技術、その60年分の手間ひまたす2秒、3秒、なんだよ・・・・・・・・・・・・・・・・。』(ただ2、3秒で偶然できているのではないのです。長年の努力の成果がこの2、3秒のなかにぎゅう

つつまっていますね・・・)

さあ、桃五のみなさんもこれまでの自分を振り返り、これまでの努力や体験を生かして1年生は生まれてこれまでの7年分、2年生は8年分、3年生は9年分、4年生は10年分、5年生は11年分。そして、6年生は12年分、小学校6年分のいろいろな体験や努力して身につけたこと、をどんなふうに生かすか、そして来年をどんな1年にするか、どんな自分を見つけるのか。そんな意味で残りの日々を大切にしてほしいのです。これまでの自分の身に付けた力で、自分らしく今年を仕上げてください。さて、皆さんのこれからの仕上げの数日は、どんなことを・・・仕上げるのでしょうか・・・。

仕上げの7日。5, 6年生は仕上げの8日。あと少しですよ、大切に大切に。

